

Si-R G211 V20.50 変更内容一覧

□機能追加・改善

No.	項目	内容
1	トラッキング機能の機能拡充	トラッキング機能で輻輳トリガ (congestion-triggerコマンド)をサポートする。
2	NXconciergeエージェント機能の改善	管理ポータル側のCPU負荷軽減施策として、エージェントからの管理ポータルへログインする際にランダムな時間だけログイン開始時間をシフトし管理ポータルへのログイン契機を分散させる改善を行う。
3	装置内遅延改善	装置内遅延を改善する。
4	内蔵通信モジュールの電波状態取得コマンドの改善	電波状態取得を行う「show wwan faultstat」コマンドを拡張して内蔵通信モジュールが初期化中でも情報取得を行えるようにする。

□修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V20.07～V20.15 ポートフォワーディング機能利用時	ポートフォワーディング機能設定時、設定したポート番号変換を伴う通信が行えない。
2	V20.07～V20.15 ポートフォワーディング機能利用時	ポートフォワーディング定義のみを動的追加してもポートフォワーディング機能が動作しない。
3	V20.07～V20.15 tcppingコマンド実行時	tcppingコマンド実行時に出力される応答時間が、実際の応答時間よりも短い。または、応答時間として、不定値情報が出力される場合がある。
4	V20.01～V20.15 show pseudo-ether statisticsコマンド実行時 simctl pinコマンド実行時	show pseudo-ether statisticsや、simctl pinコマンドを実行し、かつ電波状態取得処理など (※) が実行された場合、コマンドプロンプトが復帰してこない場合があり、以降のコマンド入力が行うことができない。 ※ - 電波状態取得処理 (pseudo-ether condition watch 設定時) - 通信回線接続開始処理 (online pseudo-etherコマンド実行時) - SIM切替処理 (simctl changeコマンド実行時)
5	V20.01～V20.15 show pseudo-ether statisticsコマンド実行時 simctl pinコマンド実行時	show pseudo-ether statisticsや、simctl pinコマンドを実行した場合、内蔵通信モジュールの電波状態表示の更新や 回線切断後の再接続などの検出が遅れる場合がある。
6	V20.15 show wwan status csvコマンド実行時	show wwan status csvコマンドの表示結果が、通信不可であるにも関わらず可能と表示される場合がある。
7	V20.15 show wwan status csvコマンド実行時	show wwan status csvコマンドを実行するとコマンドの結果表示が15秒間復帰しない場合がある。
8	V20.00～V20.15 SSH/SFTPサーバ機能利用時	特定の条件下でssh/sftp接続をする場合に、装置が再起動することがある。
9	V20.07～V20.15 tcppingコマンド実行時	tcppingコマンドでnexthopパラメータを指定して実行すると、NoRoute(IPv6時)または応答なし(IPv4時)となる場合がある。
10	V20.00～V20.15 トラッキング(ノードトリガ)機能利用時	tracking trigger nodeコマンド設定時に1つのトラッキング定義番号で複数のトリガ定義番号を設定するとトラッキング機能が有効にならない。
11	V20.07～V20.15 tcppingコマンド実行時	tcppingコマンドのパラメータの見直し。
12	V20.00～V20.15 時刻同期機能利用時	時刻同期クライアント機能使用時に、過去の時間に同期 (※) すると装置がしばらくの間無応答となり、通信不可となる場合がある。 ※ Si-Rの装置出荷時の時刻が該当する。
13	V20.00～V20.15 ・定期ログ情報の取得機能(デフォルト設定は有効) ・自動時刻設定情報機能 ・端末可視化機能 ・NXconciergeサービスのトラフィック可視化機能 利用時	定期ログ情報の取得機能(デフォルト設定は有効)、自動時刻設定情報機能、端末可視化機能、NXconciergeサービスのトラフィック可視化機能のいずれかが動作している場合に、装置起動時間と同じ時刻に、稀に、エラーコード0xd4000001を出力し再起動する場合がある。